

会員の活動を紹介

【野々市町花き生産組合】

少数精鋭の個性派集団

かつては県内有数の露地ギク産地であった野々市ですが、ここ数年、生産者の高齢化および水田の市街化によって、生産農家が減少し、今では4名のメンバーが少数精鋭で頑張っております。従来は露地の中輪ギクが生産の主体でしたが、最近では生産の形態も多様化してきており、小菊に特化した作付けをしている生産者もいれば、洋花を導入してキクと組み合わせた生産をおこなう者もいます。共通しているのは、(1)

露地栽培と施設栽培を組み合わせることで作期の分散を図っていること、(2)市場のニーズを的確に把握して、新しい品種を積極的に導入していることです。メンバーの減少に伴って、組合としての活動は減りましたが、年一回の圃場巡回をはじめとした、日頃からの積極的な情報交換により、これまでのような高い栽培技術を維持し続けるよう努めております。

(野々市町花き生産組合員 福田康浩 氏)

【七尾鹿島フラワーメイツ】

切花ハボタンの生産が増えてます

七尾鹿島フラワーメイツは、七尾市と中能登町の花き生産者で構成するグループです。会員が生産している品目は、小規模ながら、小菊、ストック、トルコギキョウ、フリージア、洋ラン、花壇苗など多岐にわたっていて、市場や直売所へ出荷しています。

2、3年前から、切花ハボタンの生産が増えてきましたが、17年度は大雪で出荷量が減少し残念な年となりました。しかし、18年度は、虫害等が一部見られましたが、生産者の努力によって概ね順調に出荷することができ、次年度の栽培にむけて弾みがつきました。

(七尾鹿島フラワーメイツ事務局 東 勝男 氏)



フラワーメイツ会員 田中さんが栽培した切花ハボタン。品質は上々

協会の活動紹介

第2回石川県花き品評会表彰式を開催

平成19年2月23(金)、石川県地場産業振興センターにおいて、第2回石川県花き品評会表彰式が開催され、入賞された6名の方々に賞状が授与されました。

表彰式は、来賓として、県農林水産部喜多次長、全農石川県本部園芸課本課長、金沢総合花き株式会社村本取締役、株式会社金沢花市場福田部長にご臨席いただき、寺本会長の挨拶で開会しました。

品評会の審査は、昨年7月31日、8月盆向けのキク、ケイトウを対象に行いました。出展数は19点で、審査員による厳正な審査の結果、最優秀賞に、キクを出展された志賀町の細川さんが選ばれました。その他、優秀賞に3名、奨励賞に2名の方々が選ばれました。入賞者の皆さんは下表のとおりです。おめでとうございます。

賞状の授与に続き、来賓を代表して喜多次長から、受賞された皆さんに対するお祝いの言葉と今後の花き振興にむけた本会の活躍を大いに期待する旨の祝辞が寄せられました。

最後に、県農業総合研究センター育種栽培研

究部田中部長から審査講評がありました。今年度は、春先の低温や6月中旬から7月上旬にかけての少雨など、生育や開花への影響が心配されましたが、出展されたキクやケイトウは、開花がちょうどお盆にあっていること、病害虫がよく抑えられていること、ほ場の管理が良好であったこと等高い技術レベルだったとの講評をいただきました。その中で、入賞した6点は、ほ場条件や品種特性をよく熟知した上で、栽培を工夫されている点が高く評価されました。



最優秀賞を受賞した細川さん

	賞 名	出品品目	入賞者氏名	所属団体名
最優秀賞	石川県知事賞	キク	細川 辰雄 氏	羽咋郡市切花研究会
優 秀 賞	全農石川県本部運営委員会会長賞	キク	角村 知勝 氏	J A 金沢市花卉部会
	金沢総合花き株式会社社長賞	ケイトウ	菊野 堅一 氏	J A 金沢市花卉部会
奨 励 賞	株式会社金沢花市場社長賞	キク	吉田 義明 氏	J A 金沢市花卉部会
	石川県花き園芸協会会長賞	キク	川岸 宗明 氏	J A 金沢市花卉部会
	石川県花き園芸協会会長賞	キク	梅田 文江 氏	J A 加賀花き部会

情報交換会を開催

平成19年2月23日(金)、第2回石川県花き品評会表彰式に続き、情報交換会が開催されました。県農業総合研究センター中央普及支援センター梅田主幹の進行で、キク2課題、切花ハボタン1課題、ストック1課題について、県及び会員からホットな情報を提供していただきました。

情報交換会のテーマと提供者

- ① 暖冬が8月咲き小菊に及ぼす影響及び電照による開花調節について
県農業総合研究センター園芸栽培グループ 古住 隆司 氏
- ② 切花ハボタンの商品開発について(協会プロジェクト活動)
県中能登農林総合事務所羽咋農林事務所 岡明 一豊 氏
- ③ 加賀地区における小菊のウイロイド対策について
県南加賀農林総合事務所加賀農林事務所 小村 由美 氏
- ④ 金沢地区におけるストックの販路開拓について
JA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会 西村 俊雄 氏

主な内容は次のとおりです。

【電照による開花調節】

- 8月咲き小菊は、春の気温が高いと幼若性が早く消失し、開花が早まる。



キクウイロイド対策について情報提供する加賀農林事務所小村さん

- 電照は、エスレル処理に比べ開花調節の精度が高い。
- 電照すると切花長が長く、分枝数や小花数が多くなり品質が向上する。

【スプレー・ブーケ状の切花ハボタンを試験販売】

- 新たな商品提案として、摘心してスプレーまたはブーケ状に仕立てた切花ハボタンの市場性を調査
- 試験販売では、1本仕立てに比べ2倍以上の高値で販売。しかし、消費量は、1本仕立てに比べてまだ少ない。
- 切花ハボタン全体の消費は増加中。栽培するならばチャンス

【産地の団結力でキクウイロイドを撲滅】

- キクの草丈が伸びない原因を県農業総合研究センターと連携し究明し、ウイロイドと同定
- この病気の克服には、栽培管理技術の見直しのほか、生産者の危機管理能力の向上、関係機関・団体の連携が重要

【ストックの販路開拓】

- 栽培当初は、山あり谷あり苦勞の数々。しかし、苦難の時期を乗り越え、市場へ出し続けた結果、固定客がつき、市場から期待される産地に成長
- 近年、仲間を増やし、県内市場のほか県外市場へ販路を開拓して、リスク回避に努力



ストックの販路開拓について情報提供するJA金沢市フラワー部会西村さん

情報交換会のあと、県農畜産課から、新たな花き対策の概要について説明がありました。

- 県では、多岐にわたる品目のうち、秋冷が早い気象や養水分をコントロールしやすい砂丘地等、本県の特徴をいかした栽培で、市場が

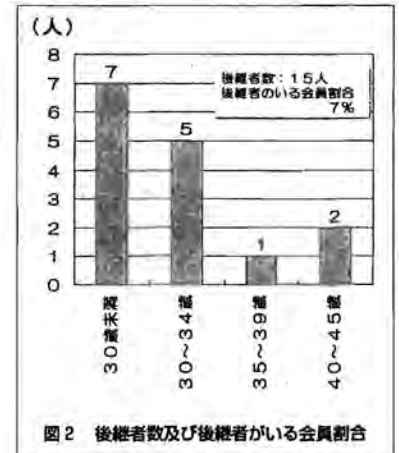
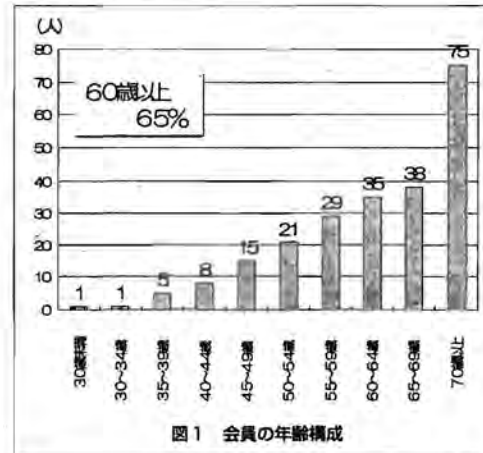
ら高く評価されている品目を5品目絞り込み、今後、支援を重点化

- 5品目は、金銀ペイント加工品、ケイトウ、ニューサイラン、サンゴミズキ、切花ハボタンで全国に誇れる花きに育成

本県花き園芸の振興に関する意見交換会を開催

平成19年1月26日(金)、県庁で、役員、特別会員、賛助会員、関係JA、全農石川県本部、県関係者19名が出席し、本県花き園芸の振興に関する意見交換会を開催しました。進行は、県農業総合研究センター中央普及支援センター梅田主幹をお願いしました。

はじめに事務局から、花きを巡る情勢について説明するとともに、昨年、役員や各地区組織の事務局の皆さんに協力していただき調査した会員の年齢構成についても報告しました。60歳以上の割合は65%、後継者が育成されている会員の割合は7%でした(図1、2参照)。



その後、役員の皆さんから、各地区組織の動きについて紹介していただき、意見交換に入りました。主な意見は次のとおりです。

- 売り上げを伸ばすには
昨年と同じことをしていると、生産額は5%減少する。どうしたら売れるか、常に新たなことを仕掛ける努力が必要
- 契約栽培のコツ
花きは、開花期がずれやすいため、野菜や果物に比べて契約取引が難しい。しかし、相場が不安定な中で、上手に取り組むことが大

切。契約数量は、出荷量の3分の1くらいが適当ではないか

- 露地ギクの生産振興
全国的に露地ギクは減少傾向にある。本県は、小菊の生産者の層が厚い。6~11月までの半年間、一定の量を出荷できる人・産地を育成すればどうか。また、原油高が続いていることから、ある程度地場流通を確保しておいたほうがいい。
今後は、これらの意見を踏まえ、課題解決に向けた活動ができればと考えています。